

オープン市場短信 (2014年11月)

2014.11.14

◆ 10月のCP市場動向

10月のCP（短期社債）月末残高は15兆1,553億円と、3か月連続して前年同月比増加し、前月比では1兆1,411億円の増加となった。

中間期末明けで、一般事業法人では資金需要が強まり1兆1,503億円の増加となり、業種別では鉄鋼が9月末残の200億円から5,970億円まで大幅増加し、その他でも卸売業・石油・電気機器等の伸びが目立っていた。金融機関も前月比1,176億円の増加となった。一方で、その他金融は小幅減少し、期末要因が解消したABC Pについても1,220億円の減少であった。

発行レートの動きについては、大幅発行増とはなったものの、投資家ニーズが強く、横這いから若干低下地合いでの動きとなった。最上位格付け銘柄では0.06%台半ばから0.08%台前半での出会い。一般銘柄（1格）については0.085%から0.12%台前半での出会いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）出会いなし。一般事業法人（a-1格）0.088%～0.123%。

その他金融銘柄（a-1格）0.085%～0.162%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	10月末残高	9月末残高	増 減
一般事法	44,268	32,765	11,503
その他金融	57,232	57,280	-48
金融機関	35,146	33,970	1,176
政府系金融	0	0	0
銀行等	14,064	13,029	1,035
証券	21,082	20,941	141
ABC P	14,907	16,127	-1,220
計	151,553	140,142	11,411

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

10月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0650% ~ 0.0840%	0.0738% ~ 0.0840%	—— ~ ——
a-1 (一般事法)	0.0850% ~ 0.1050%	0.0850% ~ 0.1020%	0.0880% ~ 0.1230%
a-1+(リース銘柄)	0.0740% ~ 0.0875%	0.0753% ~ 0.0840%	—— ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0950% ~ 0.1049%	0.0930% ~ 0.1650%	0.0850% ~ 0.1620%
a-2	0.1060% ~ ケ0.35%	0.0960% ~ ケ0.35%	0.1000% ~ ケ0.35%

《CPオペ》

CP買入オペは、9日・20日・28日と3回実行され、各回4,000億円にてオフア一された。

9日のオペではオフア金額が前回オペ(5,500億円)から大幅に減少した事や、応札可能銘柄が多かったこと等を受けて、按分・平均落札レート共に上昇した。20日のオペも売却ニーズ強く、按分レートは低下したものの平均落札レートは横這い推移となった。28日のオペは、応札可能銘柄がかなり少なかったことも影響し、按分レート・平均落札レート共に大幅に低下する結果となった。

【月末オペ残高：2兆3,161億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オフア金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
10月9日	10月15日	4,000	9,237	3,592	0.088%	0.090%	85.9%
10月20日	10月23日	4,000	9,271	3,480	0.086%	0.090%	56.7%
10月28日	10月31日	4,000	5,835	3,680	0.065%	0.080%	30.0%

《ABC P》

ABC Pの月末残は、前月比1,220億円の減少となって過去最低水準の1兆4,907億円であった。前年同月比では、約584億円の減少となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、10月末時点における発行登録企業数は、セントラル硝子が新規登録を行ったが、日本興亜損害保険が損害保険ジャパンとの合併により登録取り消しを行ったため、変わらず494社となった。通算の発行企業数も変わらず536社である。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、先月よりやや低下し0.08%前後~0.09%前後での出会いとなった。

◆ 11月のCP市場動向

11月のCP償還額は約2兆3,360億円で、前年同月の償還額（約2兆4,300億円）を若干下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、例年通り賞与手当に対応の発行が中旬以降活発に行なわれると思われる。民間企業のこの冬のボーナスは、業績の回復や賃金引き上げの影響から、2年続けて増加するという予測が大手シンクタンクから出ており、企業もその賞与手当資金をCPにて調達する動きが予想される。このような資金調達意欲の強まりにより、月末発行残高は16兆円前後となるのではないかと。

発行レートは、発行増加となっても投資家の運用ニーズも強いことから、若干低下地合いでの推移を予想する。一般銘柄の3M物では、0.080%台半ば～0.090%台前半の出合い。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物は、0.080%台後半～0.160%近辺での出合いをそれぞれ予想する。

《CPオペ》

今月は、7日（実施済）・17日・25日と、計3回の入札が、先月と同様何れもオファー額4,000億円にて実施される予定。

7日のオペは、新方式による第1回目のオペとなった。按分レート・平均落札レート共に前回より低下し、オファー額もほぼ満額（3,995億円）が落札された。

銘柄毎にレート提示を行う新方式のオペでは（オファー額に対し未達等応札が少ない場合を除き）落札額がオファー額を大幅に下回るケースは減少するものと考えられる。オペレートについては、応札可能銘柄如何によるが低下余地を探る展開となるのではないかと。

月末オペ残高は、2兆円2千億円前後を予想する。

《CP現先市場》

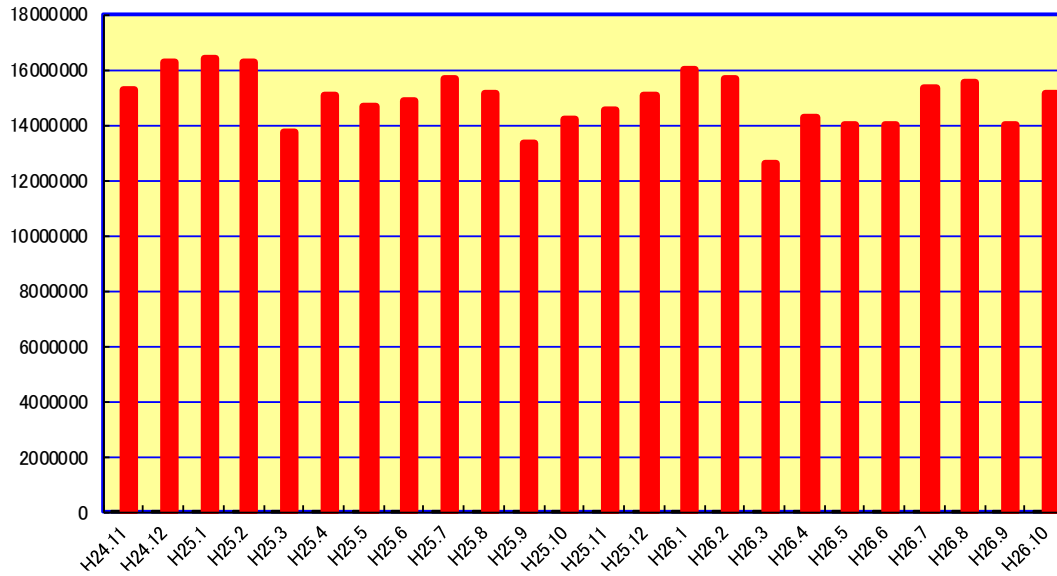
レポレート（S/N物）は、0.01%前後～0.06%前後でのワイドレンジを予想する。コールレート（無担保O/N物）も前月より低下し、0.05%近辺～0.065%近辺での推移であろう。CP現先レート（S/N物）は、0.075%近辺～0.085%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高 (24年11月～26年10月)

発行登録企業：494社（発行実績あり536社）

(過去2年間の残高を表示)



10月末発行残高ベスト20

10月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	10月末残高	9月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	786,100	775,400
2	三菱UFJリース	770,800	716,900
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	664,900	646,500
4	東京センチュリーリース	626,400	608,300
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	503,560	516,370
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	JXホールディングス	451,000	456,000
8	みずほ証券	444,600	455,100
9	SMBC日興証券	434,500	438,900
10	新日鐵住金	359,000	20,000
11	三井住友信託銀行	348,700	341,300
12	興銀リース	329,500	333,000
13	JA三井リース	329,000	332,000
14	芙蓉総合リース	327,700	327,700
15	日本証券金融	318,000	404,000
16	東 芝	303,000	171,000
17	大和証券	285,790	280,260
18	エイペックス・ファンディング	276,480	278,790
19	スタンダードチャータード銀行	227,500	170,000
20	ジェイエフイーホールディングス	215,000	0

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会